

2007 年度 原子核三者若手夏の学校 三者総会議案書

編集：2007 年度 三者事務局校（金沢大学）

目次

1	セクハラ対策ワーキンググループ	2
1.1	活動報告	2
1.2	活動内容	2
1.3	議案及び承認	2
2	2007 年度三者センター校（北海道大学）	3
2.1	活動報告；援助と協賛について	3
2.2	2007 年度夏の学校決算報告（暫定版）	3
2.2.1	収入予定	3
2.3	支出予定：各役職校からの予算申請を元に作成	3
2.3.1	各三者役職校の支出予定項目	4
2.3.2	各パート役職校の支出予定項目	4
2.4	各役職校の決算提出について	5
3	2007 年度事務局校（金沢大学）	6
3.1	活動報告	6
3.2	三者役職校の選定（承認）	6
4	2007 年度高エネルギーパート準備校（筑波大学）	7
4.1	各パートとの連携	7
4.1.1	sansha-ctr	7
4.1.2	各パート参加者専用 ML	7
4.2	募集方法について	7
4.2.1	宣伝方法	7

1 セクハラ対策ワーキンググループ

文責：南崎梓（お茶の水女子大学）

セクハラ対策ワーキンググループ（WG）は、男女ともに協力し安心して有意義な夏の学校を過ごせるように2006年度夏の学校の三者総会において承認され、発足しました。

1.1 活動報告

- 2006年8月 セクハラ対策WG 発足
- 2006年8月 2006年度ML作成
- 2007年8月 2007年度ML作成
- 2007年8月 相談窓口の設置

1.2 活動内容

- 男性の比が多い傾向がある事務局に代わり、女性が関わる問題全般について女性のための相談窓口を設ける。
- 事務局と意見交換をし、女性のためだけでなく男性にとっても有意義かつ円滑な夏の学校の運営を目指す。
- セクハラ対策WGの代表者として女性2名を選出する。
2007年度代表：南崎梓（お茶大）・望月亜衣（筑波大）
- セクハラ対策WGのMLを作成し、女性だけで話し合える場を持つ。

1.3 議案及び承認

以上の活動を踏まえ一年間話し合った結果、以下の承認を提出します。

1. セクハラ対策WGの代表者2名は同じ部屋にし、万が一トラブルが起きた場合女性側の相談部屋として活用する。
2. 女性総会を三者総会に組み込んでもらう。（2006年度承認）
→ 夏の学校でトラブルが起きたときのみ報告の時間をもらう。
3. 三者総会で二名の代表者の引継ぎを行なう。（2006年度承認）
→ 代表者の選出は参加登録の後に行なう。

セクハラ対策WGは女性のための組織ではなく、不要のトラブルを避け、全国の若手の皆さんが一同に介する夏の学校で貴重な勉強や交流の機会をより有意義にするための組織です。皆様今後も宜しくお願いします。

2 2007年度三者センター校 (北海道大学)

文責：中山真作 (北海道大学)

2.1 活動報告；援助と協賛について

2007年度三者センター校は以下の団体に対して経済的援助あるいは協賛を依頼し、承認を得た。

- 援助：基礎物理学研究所: 50万円*, 素粒子論グループ: 45万円
- 協賛*: RCNP(核物理研究センター), 原子核談話会, 高エネルギー研究者会議

* 基研からの予算は講師及び学生トーカー旅費補助とポスター印刷費を合わせて50万円。

また、ポスター印刷費(上限10万円)は実際にかかった費用のみが支払われる。(今年度は¥20,000)

* 『協賛』とは、三者の配布する夏の学校の宣伝ポスターに『～協賛』の文字列を入れることの許可に加えて、機関紙等において夏の学校の宣伝をさせて頂く、会員に対して夏の学校の講師になった場合に、自費で夏の学校に来て頂くよう呼びかけてもらうなどの意味である。

2.2 2007年度夏の学校決算報告(暫定版)

2.2.1 収入予定

(1) 前年度繰越金: ¥1,476,470 (確定)

(2) 参加費(参加者が250名の場合[†]): ¥4,000 × 250 = ¥1,000,000

(3) 外部団体からの援助金: ¥950,000 (確定)

収入合計: (1) + (2) + (3) = 3,426,470 円
--

[†]夏の学校開始前の見通しにより、参加者数を予算案における300名から250名に変更して計算した。

2.3 支出予定: 各役職校からの予算申請を元に作成

役職校	担当大学	今年度予算案(申請額)	決算予定額*	前年度決算額
三者センター校	北大	3,000	3,000	4,091
三者事務局	金沢大	0	0	0
三者準備校	新潟大	350,000	184,000	187,946
三者名簿校	筑波大	0	0	0
素粒子論パート事務局	大阪大	0	0	0
素粒子論パート準備校	東工大	23,000	30,000	1,800
原子核パートセンター校	大阪大学	0	0	0
原子核パート準備校	東京大学	7,000	6,000	451
高エネルギーパート準備校	筑波大学	5,000	5,000	0
セクハラ対策WG	-	0	0	-
役職校経費小計		388,000	228,000	194,288
講師旅費		400,000	480,000	361,850
ポスター印刷費		100,000	20,000	56,700
学生旅費補助 [†]		1,300,000	1,300,000	1,294,480
次年度繰越金		1,438,470	1,398,470	1,476,470
総計		3,626,470	3,426,470	3,383,788

* 夏の学校前における見通し。各役職校からの報告をもとに作成。

† 学生旅費補助は暫定的に 130 万円として計算した。実際の補助額とは異なる可能性がある。

2.3.1 各三者役職校の支出予定項目

- 三者センター校 (北海道大学)

申請項目	申請額	決算予定額
振込手数料	3,000	3,000
申請額合計	3,000	3,000

- 三者事務局 (金沢大学)

申請項目	申請額	決算予定額
コピー代	0*	0
申請額合計	0	0

* 研究室のコピー機を使えるため。

- 三者準備校 (新潟大学)

申請項目	申請額	決算予定額
下見・交通費	10,000	0
施設使用料金	150,000	135,000
コピー代	60,000	2,000
文具代	30,000	12,000
通信費	30,000	0
郵送費	40,000	23,000
払出し手数料	30,000	12,000
申請額合計	350,000	184,000

- 三者名簿校 (筑波大学)

申請項目	申請額	決算予定額
なし	0	0
申請額合計	0	0

2.3.2 各パート役職校の支出予定項目

- 素粒子論パート

- － 素粒子論パート事務局 (大阪大学)

申請項目	申請額	決算予定額
なし	0	0
申請額合計	0	0

- － 素粒子論パート準備校 (東京工業大学)

申請項目	申請額	決算予定額
録音・録画関係費	13,000	24,000
機材送料	6,000	2,000
消耗品代	2,000	2,000
研究会費	2,000	2,000
申請額合計	23,000	30,000

- 原子核パート

- － 原子核パートセンター校 (大阪大学)

申請項目	申請額	決算予定額
なし	0	0
申請額合計	0	0

- － 原子核パート準備校 (東京大学)

申請項目	申請額	決算予定額
郵送代	1,000	0
文房具代	6,000	6,000
申請額合計	7,000	6,000

- 高エネルギーパート

- － 高エネルギーパート準備校 (筑波大学)

申請項目	申請額	決算予定額
輸送費・文房具代	5,000	5,000
申請額合計	5,000	5,000

- セクハラ ワーキンググループ

申請項目	申請額	決算予定額
なし	0	0
申請額合計	0	0

2.4 各役職校の決算提出について

決算時には、以下の手続きをして頂きますので各役職校の方はご承知下さい。

領収書の郵送

領収書は決算時に下記 三者センター校 (北海道大学) まで、まとめて郵送して下さい。

決算報告 (メール) と見比べやすくするため、領収書の上下隅もしくは裏面に番号を振って下さい。

決算報告の提出 (メール)

決算報告をメールでお願い致します。このとき、各項目にどの領収書が対応しているかが分かるようにして下さい。

詳細については後日連絡します。

残高の振込み

三者センター校から各役職校に入金した予算が余った場合は残高を三者センター校の口座に振り込んでください。

期日 及び 郵送・連絡先

秋の学会における三者総会で決算報告を行います。

2007 年度秋の学会の開催地・日程は以下の通りです。

日本物理学会 第 62 回年次大会

開催地：北海道大学札幌キャンパス 日程：2007/9/21(金)-24(月)

各役職校のセンター校宛の決算報告、領収書提出の締め切りは、『9月9日(日)』とします。期日までに提出できない場合には下記連絡先に必ずご連絡下さい。連絡も領収書の提出もない場合には、三者からの支払いができない場合がありますのでご注意下さい。

連絡先

〒060-0180

北海道札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学理学部二号館 2-11-03

素粒子論 研究室

2007年度 三者若手夏の学校 三者センター校 宛

E-mail : yonupa-hoihoi@particle.sci.hokudai.ac.jp

phone & fax : 011-706-4436

3 2007年度事務局校(金沢大学)

文責：中村悟史(金沢大学)

3.1 活動報告

三者事務局校の仕事は主に三者総会の運営と2,3年後の三者役職校の選定でしたが、2007年度からHP・ML管理校の仕事も行うことになりました。(2006年度夏の三者総会より)仕事量が増えることが心配されていましたが、特に問題はなかったように思います。

- 2006年8月 2006年度事務局校(神戸大)から引き継ぎ
- 2006年8月 2006年度HP・ML管理校(早稲田大)から引き継ぎ
- 2006年9月 YONUPA-HPの全面更新
- 2006年9月 YONUPA-MLの拡充
- 2006年10月 ML上で秋の三者総会を執り行う
- 2006年11月 春の三者総会のためのインフォーマルミーティングを申し込む
- 2007年3月 春の三者総会の運営
- 2007年4月 YONUPA-ML更新
- 2007年6・7月 次期役職校選定のための交渉
- 2007年8月 夏の三者総会の運営

3.2 三者役職校の選定(承認)

三者役職校はローテーション校と呼ばれる19の大学の若手が毎年持ち回りで担当しています。2007年度事務局校は2010年度センター校・準備校と2009年度事務局校・名簿校を選定することになっており、ローテーションを考慮して以下の大学にお願いしました。承認をお願いします。

2010年度センター校	東北大学
2010年度準備校	首都大学東京
2009年度事務局校	大阪大学
2009年度名簿校	大阪市立大学

4 2007年度高エネルギーパート準備校(筑波大学)

文責：山崎秀樹(筑波大学)

4.1 各パートとの連携

4.1.1 sansha-ctr

去年度、高エネルギーパートから各パート校との連携について要望があったが、今年度は sansha-ctr も良く活用されており、三者準備校センター校、事務局校との連携はされていたと思われる。ただ、各役職校からの申請の依頼や通達に具体的な説明が欠けていたように感じられる部分があり、細部をこちら側で確認しなくてはいけないこともあった。

4.1.2 各パート参加者専用 ML

また、7月辺りに準備校側で各パート校の参加者専用 ML を作る話をお聞きしたが、これは事前に各パート校と相談するのが良いと思われる。というのは、各パート独自に ML を作っていることもあり、どの ML を使用するかで混乱してしまうことがある。

4.2 募集方法について

今年度では参加募集は準備校が一括して担当しており、去年度のように準備校とパート校でそれぞれ参加者登録をするという混乱は生じなかった。個人的な見解ではパート校が参加者募集をしても良いと思う。準備校側から提供される参加者情報については、参加者の連絡先も知っておきたいところである。(ただし、個人情報保護にひっかかるなら話は別)

4.2.1 宣伝方法

高エネルギーパートの学生で yonupa-ml に加入していない方が多く、今後高エネパートの参加者の方を yonupa-ml に新規に登録、もしくは、夏の学校の HP で参加者に向けて登録の案内をしていただければと思います。高エネパートでも yonupa-ml の登録を促すよう働きかけるつもりです。(事務局校様の業務を増やすようで恐縮ですが.....)